

ふくしま産業応援ファンド

助成金公募のお知らせ

研究開発をお考えの福島県内中小企業者の皆様へ

新商品・新技術等の調査・分析、開発、販路開拓に係る経費の**2分の1**を助成します

事前相談期間

令和7年2月3日(月)～2月28日(金)

- 事前相談を行うことを申請の条件とします。
- 事前相談がない場合、申請を受け付けることはできません。

申請書提出期間

令和7年2月7日(金)～3月7日(金)

助成対象期間

交付決定日(5月上旬予定)～令和8年1月31日まで

- 次回公募は、令和7年8月上旬～9月中旬の期間での実施を予定しています。

	助成対象者	対象経費	助成率	助成上限額
事業可能性等 調査事業	次のいずれかに 該当する者 ① 県内に事業所を有する 中小企業者、 NPO法人等 ② 助成期間内に 県内において創業 する者 ③ ①、②で構成 されるグループ ※みなし大企業は 対象外となります	● 旅費 ● 調査・分析費 ● その他の事業費	助成対象経費の 1 / 2 以内	100万円
技術開発事業		● 原材料費 ● 機械装置・工具器具費 (量産のための設備は対象外) ● 外注加工費 (主たる研究課題は外注不可) ● 技術指導費 ● その他の事業費		500万円
販路開拓事業 ※新商品、新製品に 関するもの		● 展示会出展関連費用 ● 広告宣伝費 ● 印刷製本費 ● 外部委託費 ● 職員等旅費 ● その他の事業費		100万円
中小企業育成 支援事業		● 謝金・旅費 ● 会議費 ● 印刷製本費 ● 通信運搬費 ● その他の事業費		100万円

※本公募にかかる説明会は実施いたしません。随時相談を受け付けていますので、公募期間の内外を問わずご相談ください。

オンラインでの
相談も実施

- 相談予約はこちら <https://timerex.net/s/f-tech/3e1ac402>
- 申請の詳細はこちら <https://fukushima-techno.com/r/>



公益財団法人福島県産業振興センター
技術支援部 技術総務課

TEL 024-959-1929
E-Mail f-tech@f-open.or.jp
LINE公式アカウント @157njtwe



〒963-0215 郡山市待池台1-12
福島県ハイテクプラザ内

テクノ・コム

<https://fukushima-techno.com/r/>

申請から事業終了までのスケジュール例

～3月上旬	3月中旬～4月末			5月上旬	～令和8年1月末まで	令和8年2月以降	
申請 (助成金交付申請書の提出)	事務局 ヒアリング の実施	審査委員会 による審査	採択者 決定	採択通知、 助成事業 開始	助成事業の実施	(事業の実績報告後) 助成金額確定、 助成金支払い	(事業終了後) 事業化等状況 の定期報告

対象事業の例（過去採択事業）

事業可能性調査

株式会社ジェット（郡山市）

事業名

超耐候性を持ち、遮光性及び伸縮屈曲性に優れた樹脂塗料の事業可能性調査

事業概要

従来、貯水槽の耐用年数が過ぎた場合は、水槽の入れ替えるのが主流であるが、入替には高額な費用と多くの時間が掛かる。槽の入替ではなく既存FRP製貯水槽に塗布できるステンレス調の、超耐候性及び伸縮屈曲性、遮光性の高い樹脂塗料を開発することで、廃棄物の削減やSDGsに対応できる。

事業成果

令和4年12月以降、貯水槽、受水層などの施工事例多数。



既存の外面に、本事業の調査対象となった紫外線に強く追従性のある超耐候性樹脂『ステンポリマー』をコーティング。

技術開発

株式会社朝日ラバー白河第二工場（白河市）

事業名

医師の手技を客観評価可能な大腸内視鏡トレーニング装置の開発

事業概要

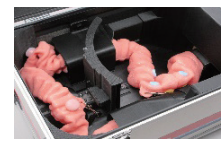
大腸内視鏡を操作する技能訓練は大腸モデルを用いることが主流で、これに習熟度の客観評価を加えることで、より訓練効果の向上が期待できる。
そこで、新たに変位の画像解析や操作記録機能を導入し、客観評価機能を加えた新製品の開発を行った。暗黙知の可視化により、大きな優位性を持つことが期待できる。

事業成果

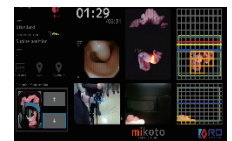
令和5年6月15日に製品発表を実施。
令和5年11月時点で数十台の国内販売を実現。



「mikoto」大腸内視鏡モデル



mikoto内部



トレーニング画面

販路開拓

株式会社宝来屋本店（郡山市）

事業名

福島県産桃と桃を原料とした桃飲料の、コロナ禍対応販路開拓事業

事業概要

福島県産の桃と桃の果汁を組み合わせた新感覚桃飲料を開発。本体スペックやコンセプトに合わせたパッケージデザイン製作をはじめ、PR動画製作、オンライン商品発表会用パネル製作等で商品PRに取り組み、露出と売上増加を図った。

事業成果

令和5年11月時点での販売累計本数は54,000本を超えている。

